出前講座人気呼ぶ

5カ月で開催6カ所 「大陸棚」に高い関心

海保校庶務課長　斎藤　正秀

国土交通省が、月から始まった「出前講座」が人気を呼び、十月末までに八カ所において開催されている。

出前講座は、市民団体、学校法人、自治体などから要望があった場合、国土交通省の職員が出向いて施策を解説し、参加者と対話する。行政の情報を開示し国民との情報交換を図る狙いがある。小学生対象の「出前まちづくりスクール」から依頼まで幅広い。講義は無料。主催者は施策ごとに異なるが、海上保安庁は、今年、「大陸棚の限界画定」、「海洋調査」、「海洋環境保全」、「海上交通安全」、「海上犯罪取締り」、「海上防災」、「海上交通センター」、「海上保安官の仕事」、「海上保安庁の装備」、「海上保安庁の組織」の九つのテーマを用意している。

この記事は広報室勤務　指導者研修の受講者が取材したものです。

本部長に聞く

海洋環境保全推進週間
海上環境事犯一斉取締り
実施結果

摘発・検挙、大幅に減る

海上保安庁は「未来に残す青い海」をスローガンとめ、平成十二年六月一日から七日までの七日間を「海洋環境保全推進週間」と定めた。期間中、延べ巡視船艇一、五〇〇隻、航空機一一機が出動して海洋汚染の防止を図るとともに、「海洋環境保全推進週間」（一一月一日～七日）と「海上環境事犯一斉取締り」（八日～一二日）の二つの取締りを実施した結果、一斉取締りによる海上環境関係法令違反の摘発、検挙件数は六九件で、昨年六月の五六件と比べ、大幅に減少した。

海洋環境保全推進週間は、全国六三カ所で海事関係者約一、三〇〇人を対象に海洋環境保全講習会を開催して廃船の廃棄物の処理処分について指導したほか、各地で海洋環境教室や海洋環境保全パネル展を開催するなど、海洋環境保全の重要性を呼びかけた。

一斉取締りの結果、船舶から有害液体物質の流下排出が二件（前年一九件）、廃船、廃棄物の不法投棄が二件（同一四件）、油類漏洗浄水の排出が一件（同一件）、廃油処理業者の無届営業が一件（同一件）、船舶からの油の流出事故が一件（同一件）、廃船、廃棄物の不法投棄がそれぞれ一七件（同二四件）と二二件（同五四件）で、投棄された廃棄物は一六八（同八三二）トンに上った。

また、東京湾では伊豆市場周辺海域で無許可のアサリ漁を操業していた漁船延べ一〇隻を検挙するなど、漁業関係法令違反の摘発、検挙件数は一〇件（同一一件）となった。

法投棄されたもの。

また、東京湾では伊豆市場周辺海域で無許可のアサリ漁を操業していた漁船延べ一〇隻を検挙するなど、漁業関係法令違反の摘発、検挙件数は一〇件（同一一件）となった。

補正予算に152億円要望

海上保安庁は十一月二十七日、十四年度補正予算に関する大臣折衝を行い、約一五二億円の要望を提出した。内容は三項目。

▽災害対応能力強化＝巡視船艇の代替整備を図るとともに、ヘリコプター搭載型巡視船の整備など＝約一〇億円。

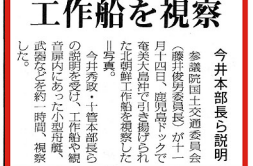
▽安全・安心の確保＝テロ・不審者等対策の強化等警備体制の充実や、音響内にあった小型浮標、船舶通航の安全を約一時間、視察した。

▽国際機関等における航路標識の整備＝約六〇億円。

今井本部長ら説明

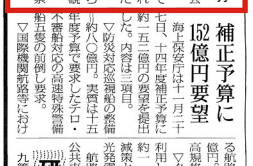
参議院国土交通委員会（藤井俊男委員長）が十月十四日、鹿児島ヘックで奪美大島沖で引き揚げられた海保の工作船を視察した。

今井秀敏＝十管本部長らの説明を受け、工作船の武装などを約一時間、視察した。



参議院国交委メンバー

工作船を視察



密航・密輸の水際防止

ふくそう海域　航行安全対策も

五管　伊藤（いとう）　隆（たかし）氏

―管区の最重要課題と伝えられていますが。

その対応について。

密航、密輸の水際防止、大阪湾の航行安全、南海地震対策の三点です。

大阪は大消費地なので、密航、密輸などの情報が集まりやすく摘発も多い。和歌山、高知などは主にしてですので、安全対策に万全を期します。

南海地震は〇〇年から一五、六年周期で起こると言われています。前回は昭和二十一年ですので、記録では二十一年でした。〇一一五年には確実に地震が起きるといわれています。前回は昭和二十一年ですので、記録では二十一年でした。〇一一五年には確実に地震が起きるといわれています。前回は昭和二十一年ですので、記録では二十一年でした。〇一一五年には確実に地震が起きるといわれています。

―事件発生からお伺いしたいのですが、最近の中で特に印象に残っていることは。

―事件発生からお伺いしたいのですが、最近の中で特に印象に残っていることは。

辛かったこと、うれしかったこと。

辛かったことは特にありません。一番印象に残っているのは、水際警察課課長のあと高等海難審判庁総務課長だった一年間の仕事でした。

―業務が辛かったこと、うれしかったことは。

―その経験を本部長として、どう生かされますか。

五管に来る前に七管本部長を務めましたが、世の中は大きく動いています。従来型の仕事をしているだけでは、世の中とかけ離れていきます。アンテナを高くして、国民の海保への要望の何が期待か二五管はなぜやっているのか」などに取りまとめていかなければならない。保安部署からも意見を上げてもらいます。それには、保安部署でもプリートーキングをやってほしいという意味もあります。

―本部長として今後の基本姿勢と職員に望むことは。

初度視察の結果を踏まえ、①業務遂行計画の的確な実施②組織改編に伴う確実な遂行③職場環境改善を実施した。

①は「ルーティンワークに対応③職場環境改善を入れました。

②は「ルーティンワークをなくすだけで十分」と思われないように、仕事の質の向上を考える時間を取れるように、仕事のやり方を改善してほしいということです。新しい仕事をするためには、何かをやめる気も必要です。特にベテラン職員ですから、ぜひ「この仕事は私がやらなければ」と考えています。

私の信条

ふくそう海域　航行安全対策も

―業務計画について。

―業務計画は「MA21」を立ち上げました。事件発生からお伺いしたいのですが、最近の中で特に印象に残っていることは。

―事件発生からお伺いしたいのですが、最近の中で特に印象に残っていることは。

―その経験を本部長として、どう生かされますか。

―業務が辛かったこと、うれしかったことは。